

057 人を裁いてはいけない、そして求めなさい(山上の説教Ⅶ)

マタイによる福音書 7 : 1~12、ルカ 6 : 37~38、41~42、11 : 9~13

※山上の説教は、イエス・キリストによるモーセの律法の解釈である（イエスはファリサイ派の教える口伝律法[ミシュナ]を否定された）。

▶人を裁くな（マタイによる福音書 7 : 1~6）

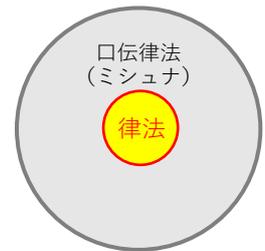
「人を裁くな（→神の支配の下で霊の中で生きている神の民は、常に自分自身を裁くのであって、他人を裁くのではない）。あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑（→ちり：回復訳）は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太（→梁：回復訳、新改訳）に気づかないのか。兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。神聖なものを犬（→霊的なことに関心を示さない人たち）に与えてはならず、また、真珠を豚（→霊的なことに関心を示さない人たち）に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう（→当時のユダヤ世界では、凶暴で野犬化した犬は、人を傷つけ、その血をなめ、肉を食べ、また豚は忌み嫌われる動物であった）。」

→裁く（クリノウ：ギリシア語）：分別する、より分ける、差別する。=critic（英語）

≠あらかじめ判断を下すこと prejudgment/foresight、偏見 prejudice

→ファリサイ派の人たちは、モーセの律法の外側に多くの規則や伝統（→人が作ったルールである口伝律法[ミシュナ]）を作り上げたが、それは人々を束縛するだけのものではなかった。当時は、口伝律法にどれくらい従っているかで、その人の霊性が評価された。これは、聖書の教えを逸脱した間違った行為で、すべての裁きは、聖書に基づいて行われるべきである。

→神の支配の下で霊の中で生きている神の民として、私たちは兄弟（きょうだい）の目の「塵（ちり）」を見つけ時はいつも、自分の目にある丸太、梁に気づかなければならない。



▶求めなさい（マタイによる福音書 7 : 7~12）

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

→まず求め、次に捜し、最後に門をたたきます。求めるとは普通に祈ること、探すとは特別に嘆願すること、門をたたくとは最も親密に、最も熱心に要求することです。

あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい（→黄金律）。これこそ律法と預言者である。」

→律法：創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記

→預言者：ヨシュア記、士師記、サムエル記上、サムエル記下、列王記上、列王記下、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、十二預言書（ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書）

【参考】 聖書にある「裁くな」他

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	7:1 「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。	
S ルカによる福音書	6:37 「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。	
S ローマの信徒への手紙	14:3 食べる人は、食べない人を軽蔑してはならないし、また、食べない人は、食べる人を裁いてはなりません。神はこのような人をも受け入れられたからです。	
S コリント信徒への手紙 I	4:5 ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります。	
S ヤコブの手紙	4:11 兄弟たち、悪口を言い合ってはなりません。兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟を裁いたりする者は、律法の悪口を言い、律法を裁くことになります。もし律法を裁くなら、律法の実践者ではなくて、裁き手です。	

【参考】 レビ記 19:18

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。私は主である。

→イエスが律法の中で一番大切な掟の一つとして指摘した箇所である（マタイによる福音書 19：19、マルコによる福音書 12：31、ルカによる福音書 10：27）

【参考】 黄金律

(1) 子貢（→孔子の 31 歳下の優秀な弟子）説うて曰わく、一言にして以て終身これを行うべき者ありや。子（→孔子）の曰わく、それ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ（「論語」衛霊公）。

→子貢が師である孔子に尋ねました。「生きる上で一番大切なことを一言だけで教えてください」。そこで孔子は言われました。「恕（じょ：思いやり）だ。自分の望まないことは人にしむけないことだ。」

(2) フランスの哲学者、文学者、歴史家ヴォルテール（1694～1778）も次のように言っています。「自然法とは、自然が全人類に教示する法にほかならない。・・・人定法はどのような状況であろうとも、この自然法の上にもみ確立されうるものである。そしてこの二つの法の大原理、普遍的原理は地球のどこからであろうと、『自分にしてほしくないことは自分もしてはならない』ということである。」

(3) 黄金律の派生として、

- ①白銀律：自分がされたくないことを人にしてはいけない。
- ②白金律：人があなたからしてもらいたいと思っていることを人にしなさい。



【参考】 見かけで裁いてはならない(ヤコブの手紙 2:1～4)

わたしの兄弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなたがたは、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるのではありませんか。